証券コード: 9268

2027年3月期 第2四半期
決算ハイライト

2026年11月13日

Agenda

① 決算ハイライト

② 通期計画の下方修正

③ 通期計画｜各段階収益の修正計画進捗率

④ 参考｜外部環境予報

⑤ ボード・メッセージ

⑥ 中期経営方針

⑦ 基本情報

①決算ハイライト

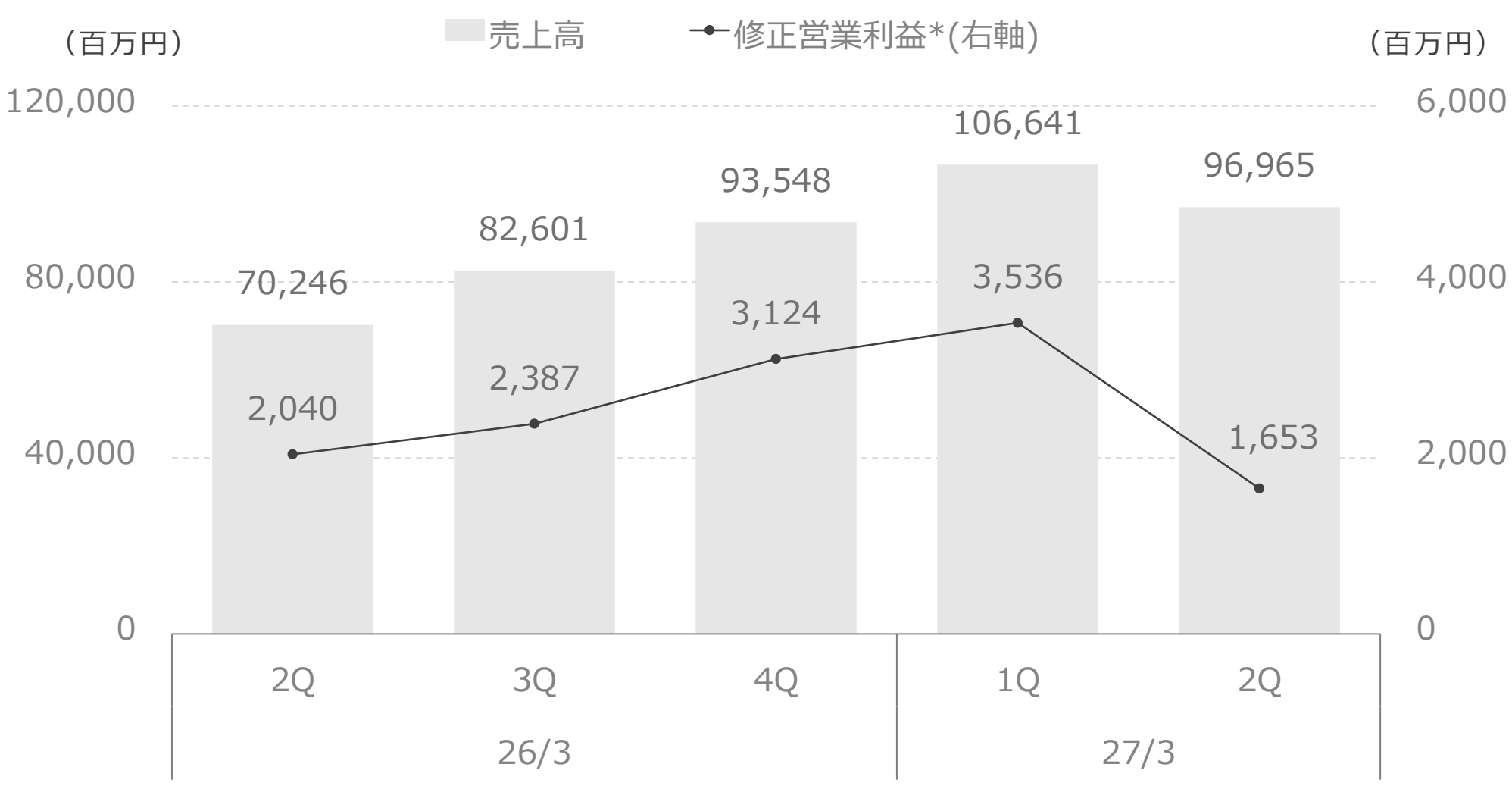
売上高の増減要因

前年同期比では、ニュージーランドの市況回復、欧州向け輸出需要の拡大、円安などにより増収となった。前四半期比では、ニュージーランドでの1Qの未船積在庫販売の反動、欧州の夏季休暇、豪州の自動車物流子会社Autocareの一部顧客の離脱により減収となった。Autocareの一部顧客の離脱は期初計画に織り込んでいた。

利益の増減要因

前年同期比では、豪州の自動車販売子会社AutopactでEVシフトの加速に端を発して粗利率が低下したことが、減益の一因となった。前四半期比では、減収に加え、豪州の新車市場で競争が一段と激化し、収益性が低下した。また、豪州で中古車販売を行う関連会社OzCarへの貸付金に係る貸倒引当金繰入額を金融費用として計上したことが、税引前利益を押し下げた。

（百万円）	26/3期 2Q	27/3期 1Q	27/3期 2Q	YoY,%	QoQ,%
連結 売上高	70,246	106,641	96,965	+38.0	△9.1
└ AU2社 単純合算	54,158	73,805	69,607	+28.5	△5.7
└ NZその他売上高	16,088	32,835	27,358	+70.1	△16.7
└ 輸出売上高（NZ）	6,111	12,297	10,066	+64.7	△18.1
└ 輸出売上高（欧州）	4,863	12,180	9,333	+91.9	△23.4
└ 物流その他売上高	5,112	8,357	7,958	+55.7	△4.8
連結 売上総利益	11,435	15,426	14,041	+22.8	△9.0
（売上総利益率,%）	16.3	14.5	14.5	–	–
連結 営業利益（IFRS）	1,935	3,528	1,621	△16.2	△54.1
連結 修正営業利益	2,040	3,536	1,653	△19.0	△53.2
連結 税引前利益（IFRS）	694	1,369	△1,927	赤字転落	赤字転落



注：26/3期3～4QはIFRS基準の数値精査が未了である。そのため、連続性のある利益指標として各四半期のJ-GAAPおよびIFRS売上総利益からのれん償却費以外の販管費を引算した値を修正営業利益と定義し併記している。売上総利益段階までは会計基準による差異がほぼ無いが、IFRS業績の精査が完了した26/3期1Q～2Qは訴求修正値に上書き修正している。2つの基準が混在しているため、26/3期1~4Qの合算値は4Q累計値と若干差異がある点に留意されたい。

②通期計画の下方修正

○ 27/3期 通期計画の下方修正

百万円	期初計画	修正計画	修正幅	増減率
売上高	380,000	410,000	+30,000	+7.9%
営業利益	11,900	11,700	△200	△1.7%
税引前利益	5,000	2,000	△3,000	△60.0%
親会社株主利益	3,200	1,100	△2,100	△65.6%
EPS（円）	46.75	16.07	△30.68	△65.6%
DPS（円）	18.00	18.00	0	0.0%

OzCar 貸倒引当金
△1,353百万円*2

- 30%出資するOzCarのVA*1手続開始を受け**貸倒引当金を計上**する。
- VA開始時点で販売用車両を担保とした関係会社貸付金、売掛金等が合わせて3,117百万円*3あり、**内回収可能性が低い一部を損金認識**した。
- 同社に係る投資有価証券は、26/3末時点で全損処理済みである。

AU自動車市場
更なる競争激化

- 長引くインフレ、中東情勢長期化に伴う燃料費の高騰、中国ブランド車の更なる台頭により、低価格車・低燃費車に需要が集中し、競争が一層激化している。

増収減益

- 売上高は上方修正する。AUD/JPYの**為替前提**を105→108円に円安修正した上、**NZ・欧州**、**Autocare**が期初計画を上回っている。
- 上記増収要因は増益要因になるものの、EVシフト影響を踏まえたAutopactの**粗利率低下**や、金利上昇による**支払利息負担の増加**が利益の押し下げ要因となる。

一株当たり配当金
変更なし

- 中間配当8.00円、期末配当10.00円とする**DPSは変更なし**。
- 株主資本DOE4.5%を目安とする**株主還元方針は継続**する。
- 2Q累計は最終赤字だが、通期では黒字を確保し、還元原資となる自己資本を着実に積み上げる計画である。

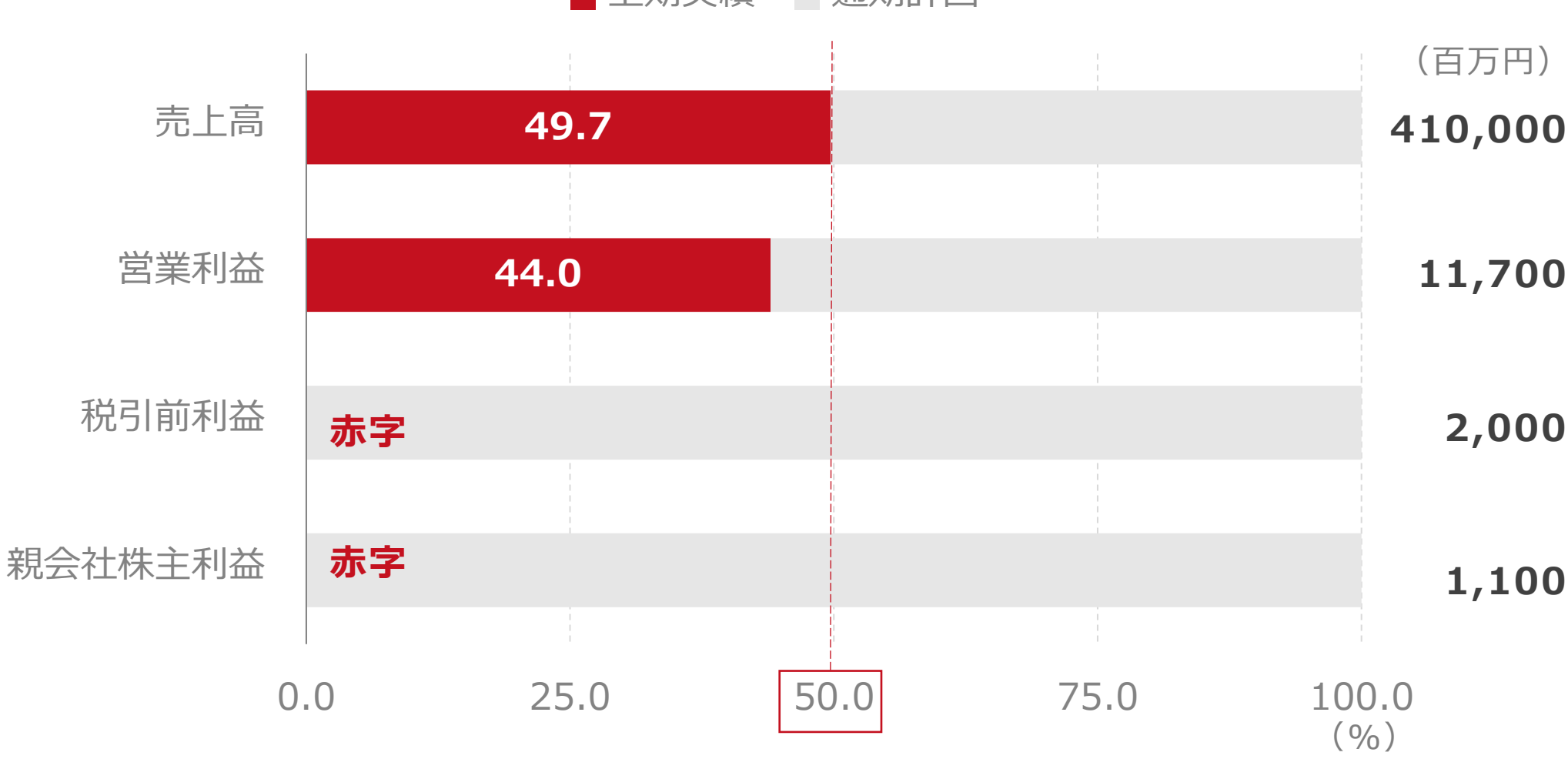
注１:VA=Voluntary Administration（任意管理手続）の略称である。オーストラリアにおける会社の再生または清算に向けた手続きの一種である。
注2：26/９末の損益計算書適用為替レート（AUD/JPY=112.81円）にて算出している。
注3：26/９末の貸借対照表適用為替レート（AUD/JPY=109.93円）にて算出している。

③ 通期計画｜各段階収益の修正計画進捗率

（2026/11/13に開示した修正計画に対する状況）

上期業績は**税引前利益以下が赤字**で、経費の増加やOzCarの引当金影響は下期に挽回する計画である。
営業利益段階の進捗率も目安の50%未満だが、**NZ・欧州**が全社利益に貢献すると考えている。

○各段階収益の修正計画進捗率



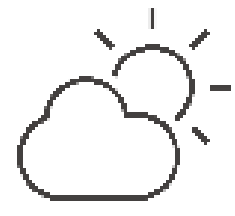
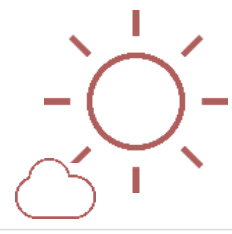
項目		27/3期 修正計画	前期比,%	2Q累計	進捗率,%
AUD/JPY	円	108.00	+8.3	112.81	–
NZD/JPY	円	90.00	+1.7%	92.94	–
売上高	百万円	410,000	+29.9	203,607	**49.7**
営業利益	百万円	11,700	+18.9	5,149	**44.0**
（営業利益率）	%	2.9	△0.2ppt	2.5	–
税引前利益	百万円	2,000	△55.5	△558	–
当期利益	百万円	1,300	△52.2	△892	–
親会社株主利益	百万円	1,100	△55.4	△994	–
EPS	円	16.07	△55.6	△14.53	–
DPS	円	18.00	0.0	8.00	–

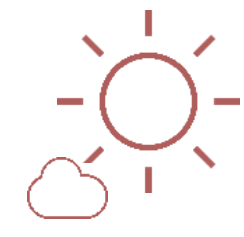
④ 参考｜外部環境予報　（2026/11/13更新）

AUの短期見通しを引き下げる。インフレ率高止まりによる政策金利引き上げ、燃料費高騰や低価格車・低燃費車シフトがAutopactに逆風となる。

一方、収益性は欧州伸長によるミックス改善が期待できる。

先4四半期の外部環境予報

前回見通し	26/10-12	27/1-3	4-6	7-9
オーストラリア				-
ニュージーランド				-
欧州他				-
収益性				-

今回見通し	26/10-12	27/1-3	4-6	7-9
オーストラリア				
ニュージーランド				
欧州他				
収益性				

⑤ボード・メッセージ

今回の上期決算における税引前・当期損益の赤字、通期業績予想の下方修正につきまして、株主・投資家の皆様に御心配をお掛け致しましたことをお詫び申し上げます。

主な要因は、豪州で中古車販売を行う関連会社OzCarへの貸付金に関する貸倒引当金と、豪州の自動車販売市場の想定を超える環境の激変です。

OzCarについては、当社豪州の連邦会社法に基づく任意管理手続（VA)に則り、影響の最小化に全力で取り組みます。また、豪州で新車販売を担うAutopactに就いては、市場の激変に適切に対応すべく、大幅な経営の合理化を進めていきます。

一方、豪州での陸上輸送事業、ニュージーランドや欧州向けの中古車関連事業は計画通りの利益を確保しており、当社グループの中長期的な収益基盤に重大な変化は生じていないと判断しております。財務面でも、フロアプランローンを除く修正ネットD/Eレシオは26年9月末時点で3.23倍、修正運転資本回転日数は26.4日と、一定の健全性と資金効率を維持しています。

今回の決算を重く受け止めつつ、事業の拡大・発展を一層進め、今後の確かな利益に繋げてゆく所存です。従い、株主の皆さまへの還元方針は継続し、年間配当予想も据え置きます。

株主の皆様のご期待に応えるべく、経営一同、力を尽くしてまいります。引き続き、変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

山中信哉

⑥ 中期経営方針　（2025/5/15開示内容から変更なし）

OzCarのVA*手続開始を受け、今後一部内容を見直す可能性がある

- 利益の絶対額と資本効率の**頑健的な水準切り上げ**が最重要KGI、26/3期から3年を目途に実現を目指す。
- マクロ環境に依らず一定の収益性を確保できる企業体に変化するための、①**収益力の強靭化**と、②**非連続成長の追求**が戦略骨子。

営業利益　（IFRS基準）

15,000＋百万円

ROE

15.0＋%

親会社株主利益　（IFRS基準）

6,000＋百万円

DOE

4.5 % 目安

収益力の強靭化

項目	オーストラリア	ニュージーランド他
事業ポートフォリオ	**・収益機会の多角化** ・中古車販売大手の中古車取扱ノウハウを活かした、Autopactの中古車販売・下取再販の拡大 ・保険/部品販売/点検/整備/修理など付帯サービスの収益拡大 **・顧客ポートフォリオの拡大** ・Autocare × Autopactの顧客クロスセル ・中国メーカーを始めとした、市場ニーズを踏まえた新規取扱開始・アロケーション変更	**・ポートフォリオ分散によるリスク低減** ・UKなどNZ以外の輸出拡大 ・NZでのCtoC取引仲介の拡大 **・キャッシュポイントの複層化** ・日本での中古車仕入～海上輸送～サービス/2次流通までの一気通貫したバリューチェーンモデルの更なる深化 ・IT/データ活用による顧客管理の強化を通じたBtoC／CtoB／CtoC領域の拡張
コスト構造	**・スケールメリットを活かしたコスト最適化** ・重複部門の段階的な集約 ・Autocare(新車物流)の帰り便を活用した中古車輸送コストの合理化 **・最適資金調達のための管理機能の高度化** ・Autopactの在庫投資適正化とフロアプラン借入に係る支払利息の削減 ・借入条件やヘッジ手段の適正化	**・既存業務の生産性改善** ・システム/プロセス管理の高度化 **・グループ全体最適の促進** ・グローバルコーポレート機能の拡充 ・グループ会社連携強化によるコスト削減 ・事業ポートフォリオ評価の推進

非連続成長の追求

市場の約7割を占める
中小ディーラーのM&A

スケールメリットの追求

1. スケールメリットを活かした仕入交渉力
2. 中央管理型CRMによる顧客折衝の最適化
3. 本社機能の集約による固定費の合理化
4. M&Aロールアップ、PMIの高い再現性

×

シナジーの追求



⑦ 基本情報

会社名	株式会社オプティマスグループ（証券コード：9268）
設立	1988年4月（株式会社日貿・ジャパントレーディング） 2015年1月（株式会社オプティマスグループ）
代表取締役社長	山中　信哉
本社	東京都港区浜松町2－４－１　世界貿易センタービル南館15階
連結子会社	54 社（国内4社、海外50社）　2026年9月30日現在
従業員数	2,784 名（連結）　32名（単体）　2026年9月30日現在
事業内容	グループ会社の推進する自動車総合サービス（輸出入、物流、検査、サービス、小売/卸売）の経営管理及びそれに付随する業務

ビジネスモデル

	地域	ニュージーランド	欧州その他	オーストラリア
日本	中古車仕入	輸出入	輸出入	輸出入
	陸送	物流	物流	物流
	清掃/整備	検査	検査	検査
	検査/検疫	検査	検査	検査
	通関	輸出入	輸出入	輸出入
	中古車/新車仕入	輸出入 / 小売/卸売	輸出入 / 小売/卸売	輸出入 / 小売/卸売
海外	海上輸送	物流	物流	物流
	通関	輸出入	輸出入	輸出入
	検査	検査	検査	検査
	陸送	物流	物流	物流
	ディーラー	小売/卸売	小売/卸売	小売/卸売
	データサービス	サービス	サービス	サービス
	金融/物販他	サービス	サービス	サービス
	CtoC	サービス	サービス	サービス

セグメント情報

輸出入	日本全国のオークション会場で中古車を仕入れ、ニュージーランドや欧州向けに輸出する。
物流	中古車を海外へ海上輸送する。また、豪州で陸送するAutocareの事業も含む。
検査	輸出入時の検査や清掃/整備を担う。害虫混入防止処理をはじめ独自技術を持つ。
サービス	主にニュージーランドでオートローンや債権回収補助、自動車関連商品販売、中古車オンライン取引サイト等を営む。
小売/卸売	オーストラリアの自動車ディーラーであるAutopactの新車/中古車販売や関連事業が主力。

○ 本資料お取扱い上のご注意

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を通して、当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではございません。

本資料に記載された将来の業績に関する記載は、当社が将来の業績を保証するものではなく、現時点において入手可能な期待・見積・予想および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を有しております。

将来の業績は、経済情勢などの当社の経営環境、事業環境の変化等により予告なく変更することがございます。

予めご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

IR・広報ユニット

Mail:info@optimusgroup.co.jp